

船井情報科学振興財団奨学生レポート

2014年12月

勝谷郁也

テキサス、ヒューストン、ライス大学

テキサス州はアメリカの南部に位置しており、面積はアラスカ州に次いで2番目、日本の総面積の2倍近くあります。ヒューストンやダラス、サンアントニオと人口が100万人を超える都市が複数あり、他にも州都のオースティンやフォートワースなどの大都市を有し、州の人口はカリフォルニアに次ぐ2番目です。テキサス州は昔1つの国であったことからなどから、出身者はテキサス州出身であることを誇りに思う傾向にあります。各所にアメリカに併合される前からの Lone Star と呼ばれる国旗（現在は州旗）が見られます。テキサス州はアメリカ国内でも異彩を放ち、大学のオリエンテーションによるとアメリカ人でさえカルチャーショックを受けるそうです。

ヒューストン市の人口は南部最大、全米で4番目です。エネルギー産業で栄え、石油会社の多くが本社を置きます。また、世界最大の医療研究機関のテキサス医療センターがライス大学の真正面にあります。スポーツでは、野球のアストロズ、フットボールのテキサンズ、バスケットボールのロケッツの本拠地で、芸術でも、バレエ、オペラ、交響楽団、演劇を有しています。ライス大学・医療センターのエリアには、博物館や美術館が密集しています。他にも国内最大規模のショッピングモール Galleria や大きな Outlet Mall もあります。春にはジャパニーズフェスティバルやアメリカ最大のカウボーイの祭典がある等と見所の多い都市です。気候に関しては夏の蒸し暑さ酷く、私の到着した6月にピークを迎え、当初はその暑さに苦しみました。気温は西海岸とはあまり変わりませんが、湿度が高いです。冬もそれほど気温は下がらず12月でも夏日となることもありました。私はまだ蒸し暑さと、健康診断の不備を埋めるために行った医療センターしかヒューストンの名物を経験できていませんが、これから少しずつ経験をしていきたいです。



大学図書館にあるケネディ大統領のスピーチの記念碑(左)と卒業生の宇宙飛行士の記念碑(右)

ヒューストンはジョンソン宇宙センターでも非常に有名です。ロケットの打ち上げが行われる場所と勘違いされがちですが、打ち上げはフロリダにあるケネディ宇宙センター等で行われ、打ち上げ後の管制がジョンソン宇宙センターで行われます。この宇宙開発はライス大学と非常に深く関係があります。1962年のケネディ大統領の「人を月に送る」という有名な演説はライス大学のフットボールスタジアムで行われました。大学図書館にはそのときの写真と大統領が使用した演説台のレプリカが飾られています。ジョンソン宇宙センターはライス大学が東部の広大な土地を寄贈したことにより開設されました。多くの宇宙飛行士がライス大学で学位を取り、日本人では土井隆雄宇宙飛行士も学位を取得されています。

ライス大学は1912年の開校で、最大の特徴は学生数にあり、アメリカ国内の総合大学では最少規模で、授業料も他の私立大学に比べ低くなっています。また、リベラルアーツカレッジと同様にカレッジ制を採用しており、学部生の多くはキャンパス内のカレッジに居住します。カレッジ対抗のユニークなイベントがあるようで、例えば、Beer Bikeではビールを飲むのと自転車で走るのを交互に行い速さを競います（飲む人と走る人は別です）。名前は忘れましたが、ハロウィンの夜は裸になって水風船を投げ合うようなイベントもあるそうです。大学院生のためのイベントも盛んに行われ、先日は90秒で自分の研究についてスピーチを行うSCREECHと呼ばれるコンテストが盛大に開かれていました。春にも、同様のイベントがあるようです。私も来年ないしは再来年に出場してみたいと思っております。

研究では、ライス大学はコラボレーティブな雰囲気があり、学科の垣根を越えて共同研究が盛んに行われます。学内だけではなく近くのテキサス医療センターやベイラー医科大学、テキサス州内では、テキサスA&M大学やテキサス大学オースティン校などとも交流があります。

大学

授業は1つのコースを取ると、だいたい週3回50分か週2回75分の時間割となります。私は、今学期は3つのコースと英語の授業を履修しました。

・熱力統計力学

評判がよく、またこの分野は勉強したことがほぼない、研究で大いに関係する固体物理の基礎でもあるので履修しました。他の履修した授業と違い学部4年生用の授業で、毎週の宿題の量がとりわけ多く、1回当たり5~10時間程度費やす必要がありました。また、授業のスピードは大変早く、私の出身学部の同内容のコースでおおよそ3授業相当を進めました。残念ながら、大学院生は誰もいなかったので、友人がおらず、ディスカッションができなかったため、先生のオフィスにはほぼ毎週質問に行きました。先生は日本の事情にも詳しく、雑談等も交わしたときに、朝永振一郎先生のお話になり、著書の「スピンをめぐる」が面白いと薦めましたところ、英語版の“The Story of Spin”をすぐに読みなさり感想を共有しました。

・固体物理

私の研究と深く関係し、先生の勧めもあり履修しました。似たような名前の授業を履修した経験がありましたが、この授業は物理学科の大学院生用に開講され電子工学の観点からとは大きく異なり、全く違う授業を履修しているようでした。先生のオフィスが私のオフィスの隣であったため、このコースも頻繁に質問に行き、授業に置いて行かれないようにしました。

・レーザー分光

研究分野を電気から光に変え、光学の知識が不足しているため履修しました。この授業は評価がテストではなくプレゼンとペーパーにより判断されます。テストや毎週の宿題がない分、比較的負担の少ないであったように感じました。

・留学生のための英語コミュニケーション

週に1度の授業でしたが、内容は非常に充実していました。週に4時間専用のソフトウェアを使って、英語の発音練習が課せられ、毎回の授業でスピーチを行いました。ライス大学らしい少人数の10人の授業でスピーチへのフィードバックが細やかで非常に役に立ちます。発音練習は1学期の間で総計50時間近く行い、個別にも先生に見て頂いたため、英語の発音に注意する必要がなくなり、ずいぶん話すのが楽になりました。この授業により英語はかなり上達し、最後のプレゼンは先生に大変褒めて頂きました。

総じてみると、どの授業も先生にたくさん質問をしに行ったので、想像より大変ではなかったように思います。先生がオフィスに居ればオフィスアワーでなくても、好きなときに訪ねれば対応すると言って下さるので、とても気軽に質問ができました。

次の春学期は、コースは1つのみでよく、ELEC599と呼ばれる研究プロジェクトの授業に集中し、学期の最後にプロジェクトの発表と口頭試問で進級が決まります。

生活

最初の1年間は大学近くの寮に居住しています。平日はシャトルバスで、休日は自転車で通学しています。夜の帰りが遅くなる時はエスコートサービスを利用して帰ります。毎週の休日は寮からショッピングシャトルが出ており、利用しています。たまに友人の車でチャイナタウンにも買い物に連れて行ってもらいました。ヒューストン市内には1店だけ、日本専用のスーパーがあり、そこではだいたいの日本食やその他の日本の雑貨が手に入るので、勉学・研究以外の面で、強い支えとなっています。

このような貴重な経験ができるのは、船井情報科学振興財団の御支援があってこそであります。この場をお借りして、御礼を申し上げます。